【参考】

2021年度通常枠

中間評価および点検検証
実施ガイド

舞い上がれ
社会を変える
みんなの力

休眠預金を活用した事業です

本ガイドのねらい

この実施ガイドでは、JANPIAが提供する「中間評価報告書」様式に沿って、
中間評価の実施内容や点検・検証の実施のポイントについて解説します。

■中間評価実施のながれ

1. ・中間評価計画を具体化する
2. ・中間評価計画の実施：事業進捗の把握をする（事実を特定する）
3. ・中間評価計画の実施：事業進捗を評価する（特定した事実の価値判断をする）
4. ・中間評価計画の実施：中間評価結果を事業の改善に活かす

点検の実施

検証の実施

1．中間評価計画を具体化する

評価計画は、評価の実施方法を整理し、 実施前に関係者で共通認識をもつことを目的に作成します。
※中間評価計画は評価実施前に作成・点検します。

①中間評価の目的
事業中間時点でみえてきた事業上の課題について関係者と協議し明らかにします。課題を洗い出す視点として、事業進捗を評価する視点等から考えていきます。

【視点の例】
- アウトプットは想定通り積み上げられているか？
- 活動は順調か？実施体制は適切か？
- アウトカム発現した貢献・阻害要因が把握できているか？
- 団体の組織基盤強化や、事業が円滑に進むための環境づくりができているか？
- 事業終了後を見据え、活動が継続するための取り組みが進んでいるか？

事業上の課題がみえてきたら、その課題を改善するために中間評価では何を確認するかを考えます。

【例】
■事業上の課題：
活動は概ね計画どおりに実施しているものの、事業の主軸であるアウトプットの達成がこのままでは難しい。

■中間評価で確認したいこと：
事業関係者でイベントへの参加者が少なかった理由の分析し、それを基に実行団体のロジックモデルの見直しをする。

1．評価計画

① 中間評価の目的：事業中間時点でみえてきた事業上の課題とそれを改善するために中間評価で確認したいこと

【事業中間時点でみえてきた事業上の課題】

【事業上の課題を改善するために中間評価で確認したいこと】

② 実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職

②実施体制
これまでの事業の実施プロセスや進捗状況と必要な改善策について、自団体だけではなく広く関係者に参加してもらうなど、多様な意見が取り入れられるための体制を考えます。

1．中間評価計画を具体化する

④事業設計図の検証方法
事業の実施プロセス
1，2人で机上で検証してしまうのがNG
多様な視点（自団体だけではなく広く関係者で検証できる体制）

③実施状況を把握・検証するために実施する調査

実施状況をより詳しく把握・検証するために調査を実施する場合は、その方法や実施時期、検証方法を考えます。

以下の視点などから、実施する調査の適切性を確認します。

■調査方法の適切性
- 情報の出どころは信頼性が高いか
- 調査対象群から十分な量の回答を回収できるか
- アンケートやヒアリング項目は誘導質問になっていないか
- アンケートやインタビュー、ワークショップ等に多くの人が協力してくれる設計になっているか
- 参加者の選定に意図しない偏りが生じ ていないか

■倫理的な問題への配慮
- 対象者への負荷やプライバシーへの配慮はできているか
- 調査対象者が回答することを拒否ができる設計になっているか
- 誰かを批判、誹謗中傷するような調査内容となっていないか

詳しくは「参考資料集 2022年3月版」をご参考ください。
※指標設定、ロジックモデル、調査手法（アンケート、インタビュー、グループディスカッションetc）、調査依頼等について解説しています。

③ 実施状況を把握・検証するために実施する調査

（例：活動実施プロセスの検証・アウトプット測定・アウトカムの発現状況の測定・ニーズ調査・活動の有効性についての聞き取りなど）
調査方法：

調査実施時期：

調査結果の検証方法：

④ 事業設計図の検証方法：

検証方法：

実施時期：

事業計画書や資金計画書への反映実施時期：

【参考】実施した調査の概要については以下の記載例をご参考ください。

記載項目	定量的な評価	定性的な評価
調査方法	アンケート調査（主な項目も記載）	インタビュー調査
調査実施時期	2023 年 XX月～2023 年 XX月	
調査対象者	事業の対象となった XX 人のうち，XX 人を無作為抽出にて選定し～。回収者数 X 人（回収率 X%） であった。	事業の対象となった XX 人のうち，最も特徴的な変化を示した X 人を対象にした。その選定方法とし て～。
調査結果の検証方法	xx と xx についてクロス集計を行った。	調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。

2．中間評価計画の実施：事業進捗の把握をする

事業計画に定めたアウトプット指標について測定し、現在の状況を確認します。

①アウトプットの実績

事業の中間時点での達成状況を記載します。事業計画で設定した定量的・定性的指標のいずれも測定します。

※各項目は事業計画書で設定したアウトプット、指標、目標値（中間評価時の値/状態、または事後評価時の値/状態）を記載します。達成時期は記載した目標値が中間評価時点のものか、事後評価時のものかにあわせて記載します。

【現在の指標の達成状況】には、現在の実績値と、指標の目標値と実績を比較して、事業進捗が順調かどうかの判断した結果を記載します。※進捗状況は4段階で記載します。

アウトプットごとに事業計画書に記載した指標、目標値/状態、その達成時期を記載します。目標値は中間評価時（任意設定）、事後評価時のどちらでも構いません

① アウトプットの実績

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊

【非資金的支援】

【非資金的支援】の項目は資金分配団体のみです。

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況＊

＊進捗状況：1 計画より進んでいる 、2 計画どおり進んでいる 、3 計画より遅れている、4 その他

2．中間評価計画の実施：事業進捗の把握をする

事業計画に定めたアウトカム指標について、現在の状況を確認します。
指標の測定は任意ですが、これまでの事業活動の中で把握している状況を記載します。

②短期アウトカムにつながりそうな変化
指標としては設定していないものの、将来的にアウトカムにつながりそうな活動直後にみられた受益者、対象者、関係団体等の変化があれば記載します。

③短期アウトカムの進捗状況
アウトカムで「誰の」変化を捉えたいのかを明確にした上で、これまでの活動を通して把握している変化や改善状況を記載します。

短期アウトカムの発現の兆しを確認することで、目指しているアウトカムの方向に事業が進んでいるかを確認します。

② 短期アウトカムにつながりそうな、活動直後にみられた受益者、対象者、関係団体等の変化（言動）があれば記載してください。

（例）ネットワーク交流会開催後の懇親会の場で、参加者同士の交流が活発になり、連絡先の交換や団体への視察の計画などが組まれていた。

③ 短期アウトカムの進捗状況

事業計画書の内容を記載します。目標値は中間評価時（任意設定）、事後評価時のどちらでも構いません

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	[illegible]

【非資金的支援】

【非資金的支援】の項目は資金分配団体のみです。

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況

④ 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

⑤ 事前評価時には想定していなかった変化・影響

2．中間評価計画の実施：事業進捗の把握をする

④短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

③で把握している短期アウトカムの状態変化・改善が何が要因で起こったのかを記載します。また短期アウトカムの状態の変化・改善があった具体的な事例があれば記載します。

⑤事前評価時には想定していなかった変化・影響

想定外の変化・影響が生まれている場合には、それを生み出した取り組みを考察して記載します。
活動や事例を考察し、事業後半で注力すべき活動や活動でのポイントなどについて協議し、事業改善に活かします。
また、想定外の変化・影響が生まれている場合は、事業設計のロジックを見直し、事業計画を改善します。

② 短期アウトカムにつながりそうな、活動直後にみられた受益者、対象者、関係団体等の変化（言動）があれば記載してください。

（例）ネットワーク交流会開催後の懇親会の場で、参加者同士の交流が活発になり、連絡先の交換や団体への視察の計画などが組まれていた。

③ 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況

④ 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

⑤ 事前評価時には想定していなかった変化・影響

3．中間評価計画の実施：事業進捗を評価する

事業進捗を自己評価します。把握した事業進捗結果をＡ～Ｃの評価の視点から考察します。

A.アウトカムが発現するための活動が適切に実施され、アウトプットは想定どおり積み上げられているか

何を「事実」として特定し、どう「価値判断」したのかを記載します。

ここでは、アウトプットの達成状況について、指標の目標値と実績を比較して（＝事実の特定）、事業進捗が順調かどうかをどう判断したのか（＝価値判断）、理由と併せて記載します。

⑥　事業進捗の評価

評価の視点	自己評価（価値判断）結果
A.アウトカムが発現するための活動が適切に実施され、アウトプットは想定どおり積み上げられているか	
B.アウトカム発現への貢献要因や阻害要因を把握し、事業改善につなげられているか	
C.組織基盤強化や、事業活動が円滑に進むための環境づくりができているか。また事業終了後を見据え、活動が継続するための取り組みが進んでいるか	

B.アウトカム発現への貢献要因や阻害要因を把握し、事業改善につなげられているか

ここでは、④で整理したこれまでに把握している短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や阻害要因について、事業計画の改善にどのように役立てたのかを記載します。

C.組織基盤強化や、事業活動が円滑に進むための環境づくりができているか。また事業終了後を見据え、活動が継続するための取り組みが進んでいるか

「助成終了後に何を残すか？」を軸に、

- **実行団体がどういう状態になっていることを目指すのか**
- **地域がどのような状態になっていることを目指すのか**
- **事業はどのような価値を残すのか**

を今一度整理します。

そのために必要な計画が立てられているか、そのための活動は進捗しているか、を検証し、その結果を記載します。
事業が残す価値は、ネットワークや資金獲得の仕組みの構築や、施策化、分野への知見・教訓など、様々な共有財の形があります。

4．中間評価計画の実施：中間評価結果を事業の改善に活かす

中間評価結果から、事業の改善に反映することがないかを確認し、事業設計、事業計画、活動に取り込みます。

①事業の改善結果

a.事業設計（ロジックモデル）の改善ポイント

評価結果を活用し、活動―アウトプット―アウトカムのつながりをより良くするために見直したところなどを記載します。

b.事業計画書の改善ポイント

評価結果を活用し、

- **受益者のニーズや課題**
- **活動内容や方法、実施時期、実施体制**
- **アウトプットやアウトカムの指標（指標設定、目標値、達成時期、測定方法など）**

などで見直したところなどがあれば記載します。

c. その他

上記の他に改善したことがあれば記載します。

3．事業の改善結果

①事業の改善結果

項目	内容
a.事業設計（ロジックモデル）の改善ポイント	
b.事業計画書の改善ポイント	
c. その他	

②事業で最も重視する指標・変化

②事業で最も重視する指標・変化

事前評価段階で設定していた指標のうち、事業実施を通して最も重要だと考える指標・変化を記載します。

また、設定していなかったが、最も重要だと考える指標が新たに出てきた場合はそれを記載します。

5. 参考資料

■実行団体向け評価ハンドブック～中間評価編～2021年8月版

初めて評価に取り組む実行団体向けに、手順や実施方法を実践的かつわかりやすくお伝えすることを目指して作成したハンドブックです。
※「資金分配団体・実行団体に向けての評価指針」 に基づき作成していますが、あくまで参考資料であり、本ハンドブックにとらわれることなく、 各団体に最適な手法で自己評価を実施していってください。

■参考資料集_2022年3月版

※指標設定、ロジックモデル、調査手法（アンケート、インタビュー、グループディスカッションetc）、調査依頼等について解説しています。

■「評価の本質一枚紙」業務改善プロジェクト（評価検討チーム）

■資金分配団体・実行団体に向けての評価指針

「民間公益活動を促進するための休眠預金等に係る資金の活用に関する法律」に基づき策定された「基本方針」 （平成30年３月30日内閣総理大臣決定）により、指定活用団体において策定すると規定されているもので、資金分配団体や民間公益活動を行う実行団体が、休眠預金等の活用の際に実施すべき評価について記述されています。

■20年度通常枠向け　点検：中間評価計画に対するチェックリスト

本ガイドの内容に沿って点検を行う際のポイントがチェックリスト化されています。 また中間評価が終わったあとの中間評価報告書検証のためのチェックリストも同ファイルになっています。20年度通常枠向けの資料ですが、内容に変更はありませんので別年度の事業でも使用していただくことが可能です。

6. 変更履歴

変更日　2023/8/16

①5~7ページの文言微修正
②10ページに参考資料リンクを掲載。中間評価のご案内資料と同じリンクに加え、20年度向けのチェックリストのリンクも記載。